

①
ポイント

メシアの聖誕①

「受胎告知
驚きと喜びと」

～エリサベツとマリア～



【今日のアウトライン】

- 0. メシア誕生前夜
 - I. 洗礼者ヨハネ誕生の予告
 - II. マリアの受胎告知
 - III. マリアの賛歌
 - IV. 洗礼者ヨハネの誕生
 - V. まとめ
- アドベントに待ち望む主とは？



0. メシア誕生前夜



聖書の最大のテーマは、

「神の栄光」

(「シャカイナグロリー」)

その地上での喪失と回復

天地創造 創世記1章1節

地の再創造(エデン)

創世記1章2節〜2章3節

天使の墮落→

最初のアダム
人の墮落→

キリストの十字架

最後のアダム
キリストの
← 再臨

キリストによる
← 最後の裁き

千年王国(エデンの回復)

現在(教会時代)

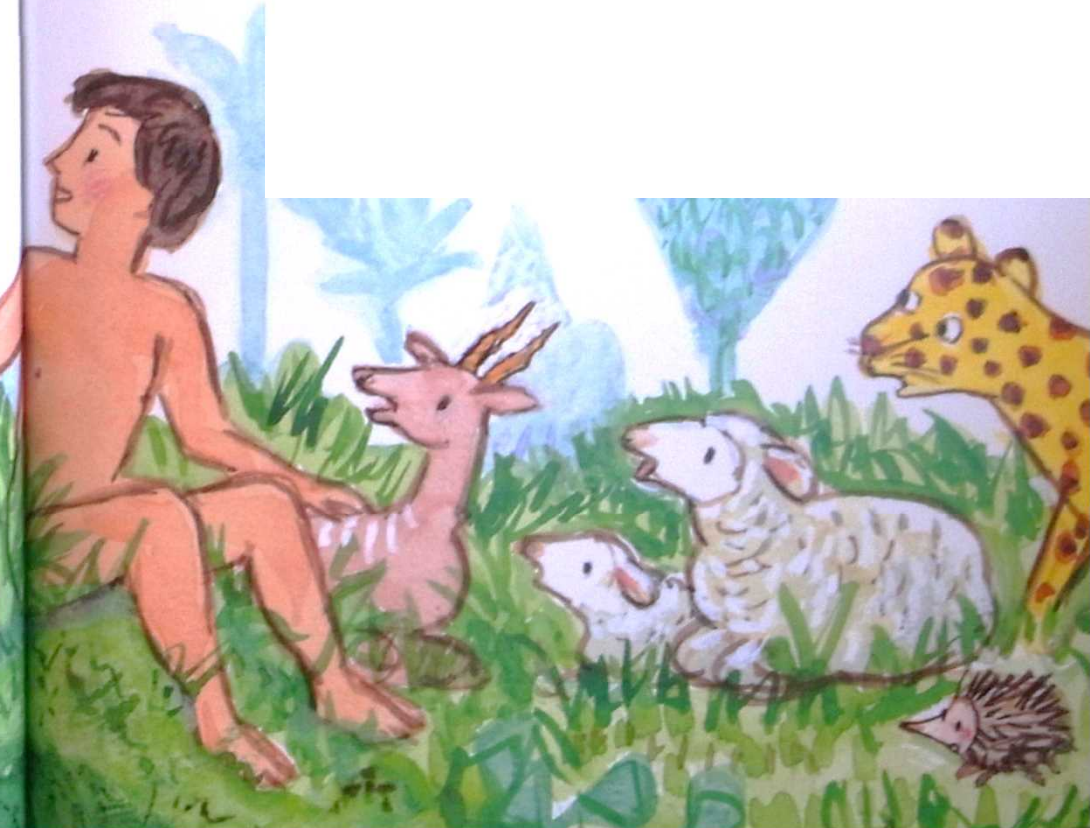
新天新地

黙示録21〜22章





人間は 神との約束を破り、
神と断絶した。罪の結果、
死と滅びを免れなくなった。





しかし、神は、メシア・救い主を送ることを約束された。

「お前と女、お前の子孫と女の子孫の間にわたしは敵意を置く。彼はお前の頭を砕きお前は彼のかかとを砕く。」 創世記3章15節

さらに神は、アブラハムを選び、約束された。

アブラハムの子孫を繁栄させ、
約束の土地を与え、
アブラハムの子孫から、
メシアを誕生させることを。

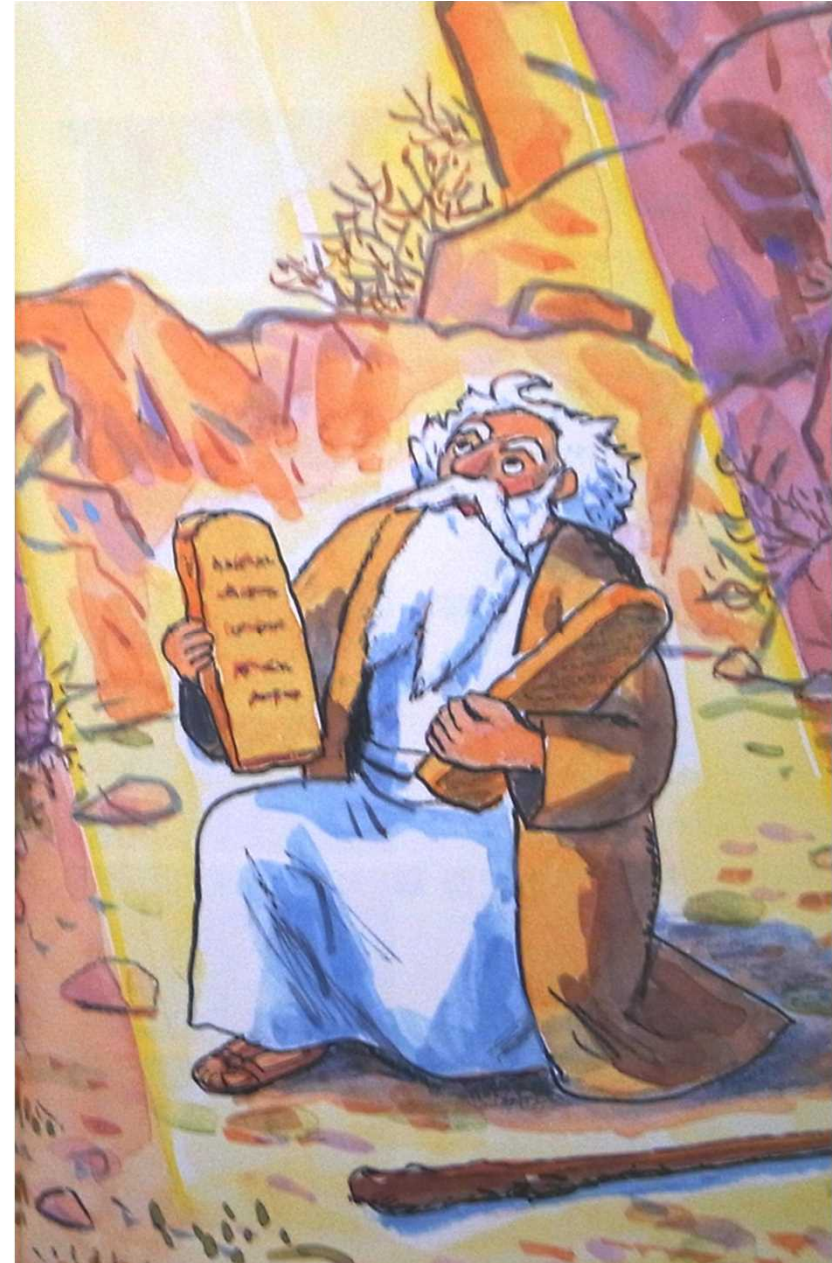
やがて、アブラハム、イサク、ヤコブの子孫から、
イスラエル民族が誕生した。



【モーセ契約】 出エジプト20章

一つの民族に成長した
イスラエルは、
神から律法を授かった。

律法を守っている限り、
イスラエルは、祝福され、
繁栄が約束されていた。



イスラエルは、カナンに王国を建設。ダビデ王、ソロモン王の時に、最も繁栄した。しかし、神に背き、偶像礼拝を重ね、王国は分裂。神殿から神の栄光は去り、遂には、バビロニアに滅ぼされてしまった。(バビロン捕囚BC567)



【捕囚からの帰還・神殿の再建】

70年後、捕囚から解放されたイスラエルは、荒れ果てたエルサレムに神殿を再建した。しかし、その神殿に、神の栄光はなく、民の苦難は続いた。

バビロニア、ペルシャ、ギリシャと、大国に支配され続けたイスラエルは、強大な世界帝国ローマによる厳しい支配の下におかれていた。

イスラエルの人々のメシアを待ち望む思いはこれまでになく高まっていた。





紀元前4年。ローマの傀儡であるヘロデ大王は、
イスラエルを恐怖で支配していた。

天才的な建築家、ヘロデの手によって
エルサレム神殿は大改修され、
世界の七不思議とされるほどだったが、
指導者たちは腐敗し、人々の信仰も後退していた。

混沌の中、残された一人の信仰者に
不思議な出来事が起こる。

I. 洗礼者ヨハネの受胎告知

ルカ1:5~25



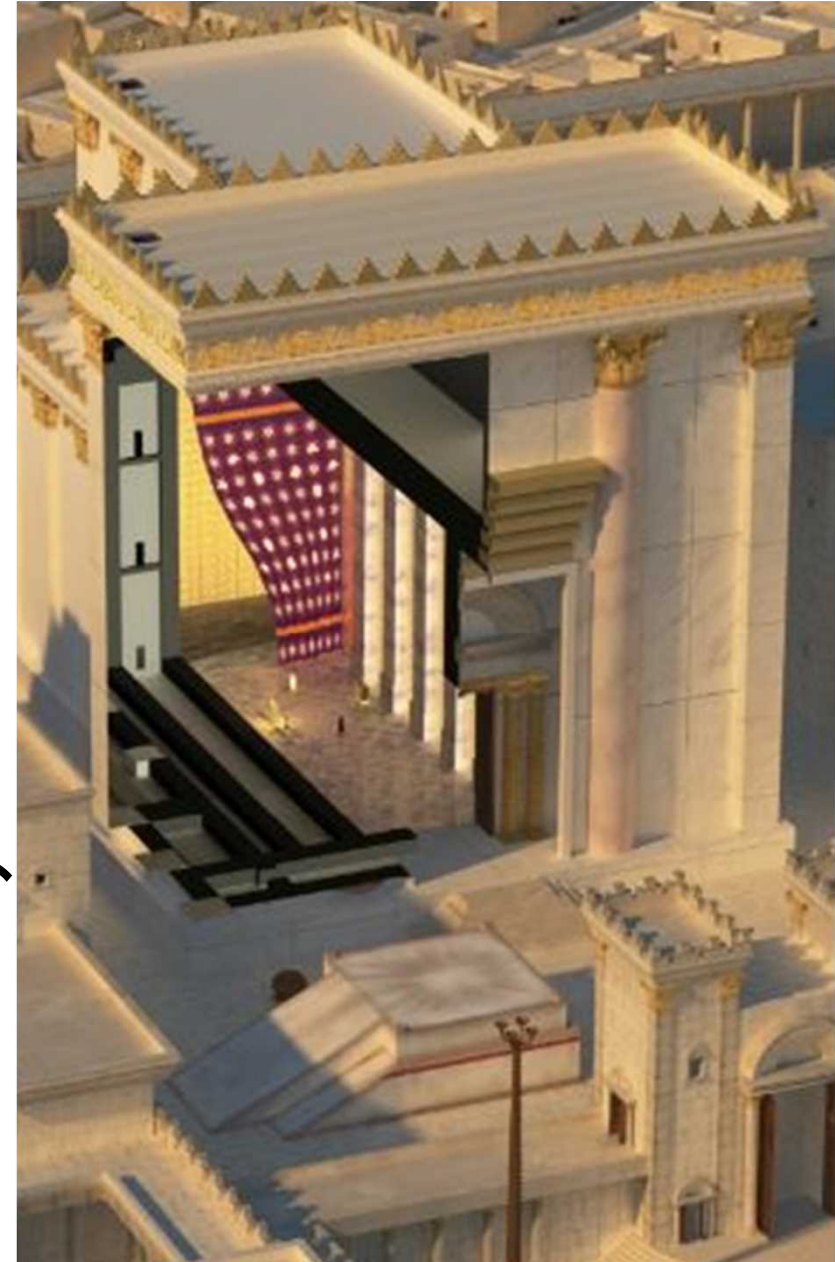






【ザカリアとエリザベツ】 ルカ1:5~1:9

- ザカリアは長年、大勢いる祭司の一人として、神に忠実に地道に働いてきた。引退も間近だった
- 妻エリサベツは不妊の女と言われ、子どもはいなかった。
- そんなある日、ゼカリアは、くじで選ばれ、神殿で香を焚く奉仕に任ぜられた。全イスラエルを代表して祈るという、生涯に一度あるかないかの大役だった。



【出現した天使】 ルカ1:10～11

- ところが、突然、目の前の香壇の右に、天使が現れた。
- 天使が香壇の右に現れるとき、裁きを下すと言い伝えられていた。
- 何か重大な過ちを犯したのか？
恐れるザカリアに天使が告げた。

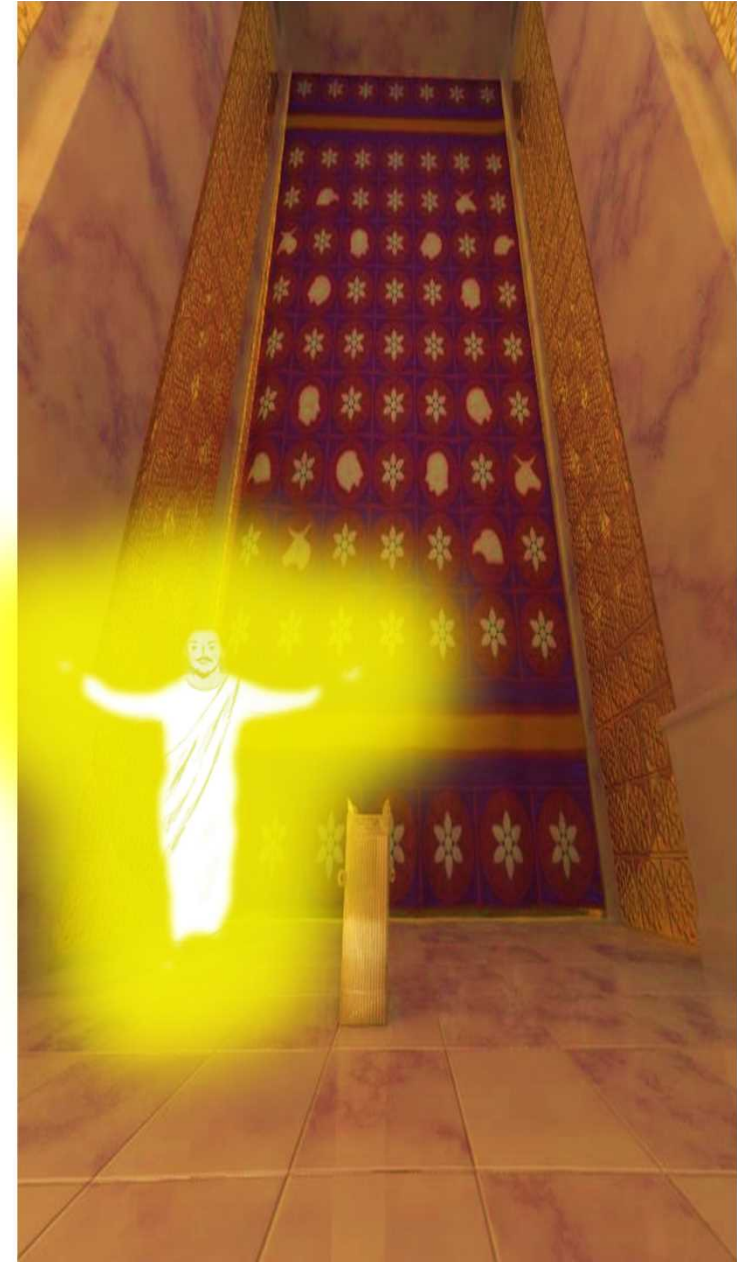


【天使の伝言】 ルカ1:13~17

天使はザカリアに四つのことを告げた。

- ① エリサベツが子を産む!!
- ② 「ヨハネ(主は恵み深い)」と命名される
- ③ 彼は、誓願者として神に生涯をささげ、
聖霊に満たされ、神に仕える。
- ④ 彼は、イスラエルを悔い改めに導き、
メシア到来の準備をする。

洗礼者ヨハネの誕生が予告された!!



【ザカリアへのしるし】 ルカ1:18～

- ザカリアは、天使の言葉を疑ったため、ヨハネ誕生まで、話せなくされた。
- 神殿の外で待っていた人々は、ザカリアの様子を見て、驚いた。神の奇跡は、久しく、イスラエルに現れていなかったのだ。
- そして、不妊の女エリサベツは、まもなく身ごもった。



Ⅱ. マリアの受胎告知 ルカ1:26～38



【ガリラヤのナザレの MARIA】 ルカ1:26～23

- 聖書に一度も登場しない、田舎町のナザレ。その町に、婚約し、結婚を控えた一組の男女、ヨセフと MARIA がいた。
- 二人は共に、メシアに連なるとされるダビデの家系に属していた。ヨセフは、ダビデの故郷、ベツレヘムの出身だった。
- この頃の女性たちが皆そうだったように、MARIA は、十代の年端もいかない乙女だった。



【天使の出現】 ルカ1:26～27

ところで、その六か月目*に、御使いガブリエルが、神から遣わされてガリラヤのナザレという町のひとりの処女のところに来た。この処女は、ダビデの家系のヨセフという人のいいなづけで、名をマリヤといった。

- * エリサベツのヨハネ懐妊の6ヶ月目。
- * ガブリエル ...バビロン捕囚のさなか、預言者ダニエルに、メシア誕生のタイムスケジュール(70週の預言)を告げた。
- * ヘブル語でミリアム。モーセの姉と同じ。当時、一般的な名前だった。



【天使の祝福】 ルカ1:28～29

御使いは、入って来ると、マリヤに言った。
「おめでとう*、恵まれた方*。主があなたと
ともにおられます。」

しかし、マリヤはこのことばに、ひどくとまどって、これはいったい何のあいさつかと
考え込んだ。

* シャローム(平安あれ)

* 神の恵みは、常に一方的。

選ばれる理由は、人の側にはない!!



【受胎告知】 ルカ1:30～31

すると御使いが言った。「こわがることはない。マリヤ。あなたは神から恵みを受けた*のです。

ご覧なさい。あなたはみごもって、男の子を産みます。名をイエス*とつけなさい。

* 恵みとは、メシア(救い主)の懐妊。

* イエス ⇒ イエシュア(主は救い)
モーセの後継者、ヨシュアと同じ。



イスラエルが待ち望んだ
メシアがついに!!

【メシアの地位】 ルカ1:32～33

その子はすぐれた者となり、いと高き方の子*と呼ばれます。また、神である主は彼にその父ダビデの王位*をお与えになります。彼はとこしえにヤコブの家を治め、その国は終わることがありません。」

*いと高き方(神)の子 ⇒ 神と等しい者

*ダビデの王位 = ダビデの子

■ いずれも預言されたメシアの称号。

メシアは、地上に永遠の王国を建てる!!



【天使の出現】 ルカ1:34～35

そこで、マリヤは御使いに言った。「どうしてそのようなことになりえましょう。私はまだ男の人を知らないのに。」

御使いは答えて言った。「聖霊があなたの上に臨み、いと高き方の力があなたをおおいます*。それゆえ、生まれる者は、聖なる者、神の子*と呼ばれます。

* メシアは、父なる神と聖霊の力によって
マリアの内にみごもられ、誕生する。

* 原罪を持たず、神と等しい神の子である。



【マリアの疑問】 ルカ 1:36～37

ご覧なさい。あなたの親類のエリサベツも、あの年になって男の子を宿しています。不妊の女といわれていた人なのに、今はもう六か月です。神にとって不可能なことは一つもありません*。」

* エリサベツ懐妊の噂は、マリアの耳にも?!

* 聖書が繰り返し教える神のご性質。

創造主なる唯一の神は、全知全能。

- 本当の神の奇跡とは、
この次元の物理的法則を超越したもの。
⇒ だからこそ、創造主のしるしとなる。



【マリアの疑問】 ルカ 1:38

マリアは言った。「ほんとうに、私は主のはしためです。どうぞ、あなたのおことばどおりこの身になりますように。」こうして御使いは彼女から去って行った。

【神の召しに対する応答は、二つに一つ】

- ①従順に、受け入れるか？
- ②頑なに、拒むか？

恵みも選びも一方的。選ばれる側に理由はない。神の御心ならば、どんなにあらがっても、最後は受け入れるしかない。モーセのように!

マリアは、最初から受け入れた!!



【インマヌエルなる主イエス】

■ 北王国の預言者イザヤへの預言

イザヤ7:14 それゆえ、主みずから、あなたがたに一つのしるしを与えられる。見よ。処女がみごもっている。そして男の子を産み、その名を『インマヌエル*』と名づける。

* インマヌエル ⇒ 神は私たちと共におられる

■ 神が人となって、私たちの間に住まわれた。

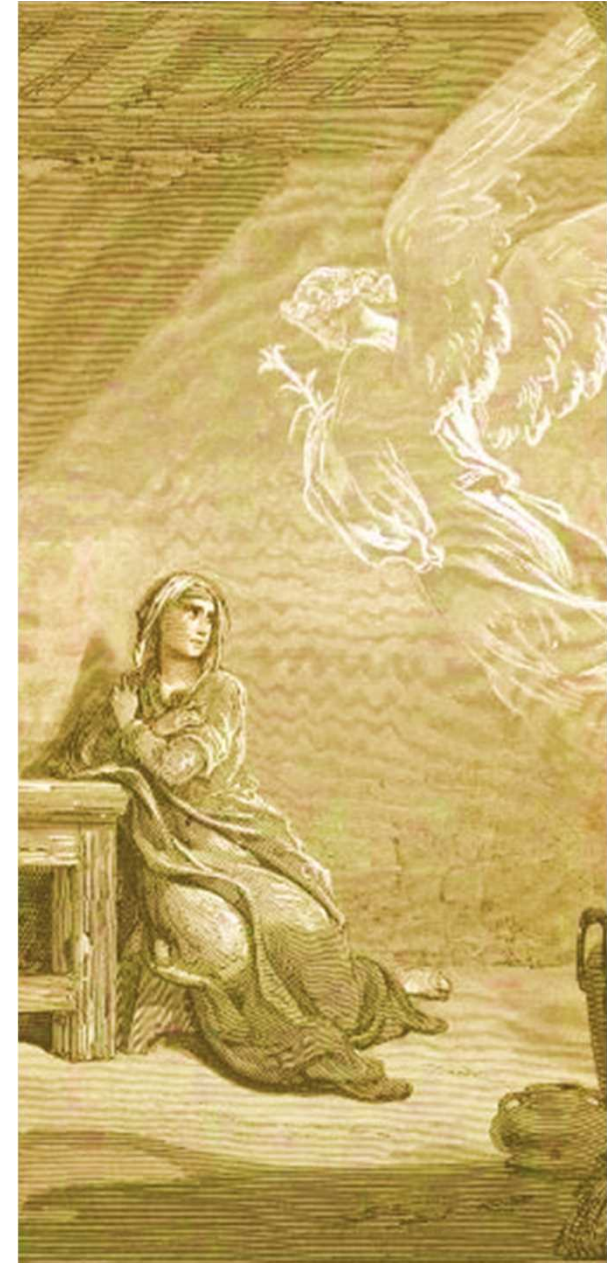
ヨハネ1:14 ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。



【告知の内容】 ルカ 1:31～33

天使が告げたのはメシアに関する5つのこと

- ① **イエス**(イエシュア・主は救い)と命名せよ！
- ② すぐれた者、次元が違う偉大な者である。
- ③ いと高き方、すなわち**神の子**である。
- ④ 父ダビデの王座を継ぐ。
すなわち、ダビデ王の子孫として現れると
約束されたメシアである。
- ⑤ やがて来る**神の王国の永遠の王**となる。



Ⅲ. マリアの賛歌 ルカ1:39～56



【マリアとエリサベツ】 ルカ1:39~45

- 神のしるしを確認するため、マリアは、親族のエリサベツを訪れた。
- エリサベツの胎内のヨハネは、マリアの胎内のメシアと出会い、喜びおどった。
- エリサベツは聖霊に満たされ、マリアがみごもったその子こそ、メシアだという確信を与えられ、マリアを祝福して言った。
「主によって語られたことは必ず実現すると信じた人は、幸いです。」
- マリアは、神を讃える歌をささげた。

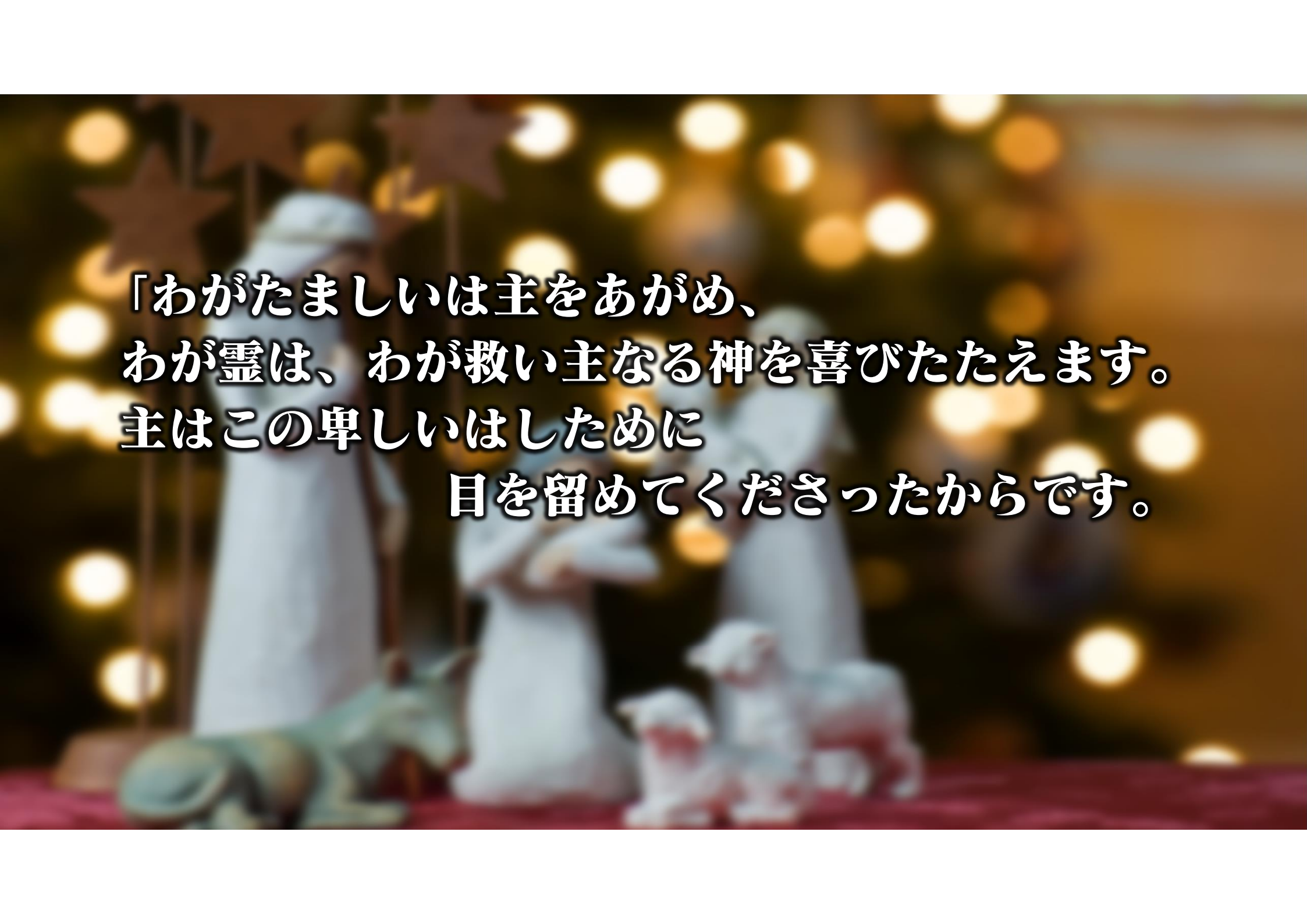




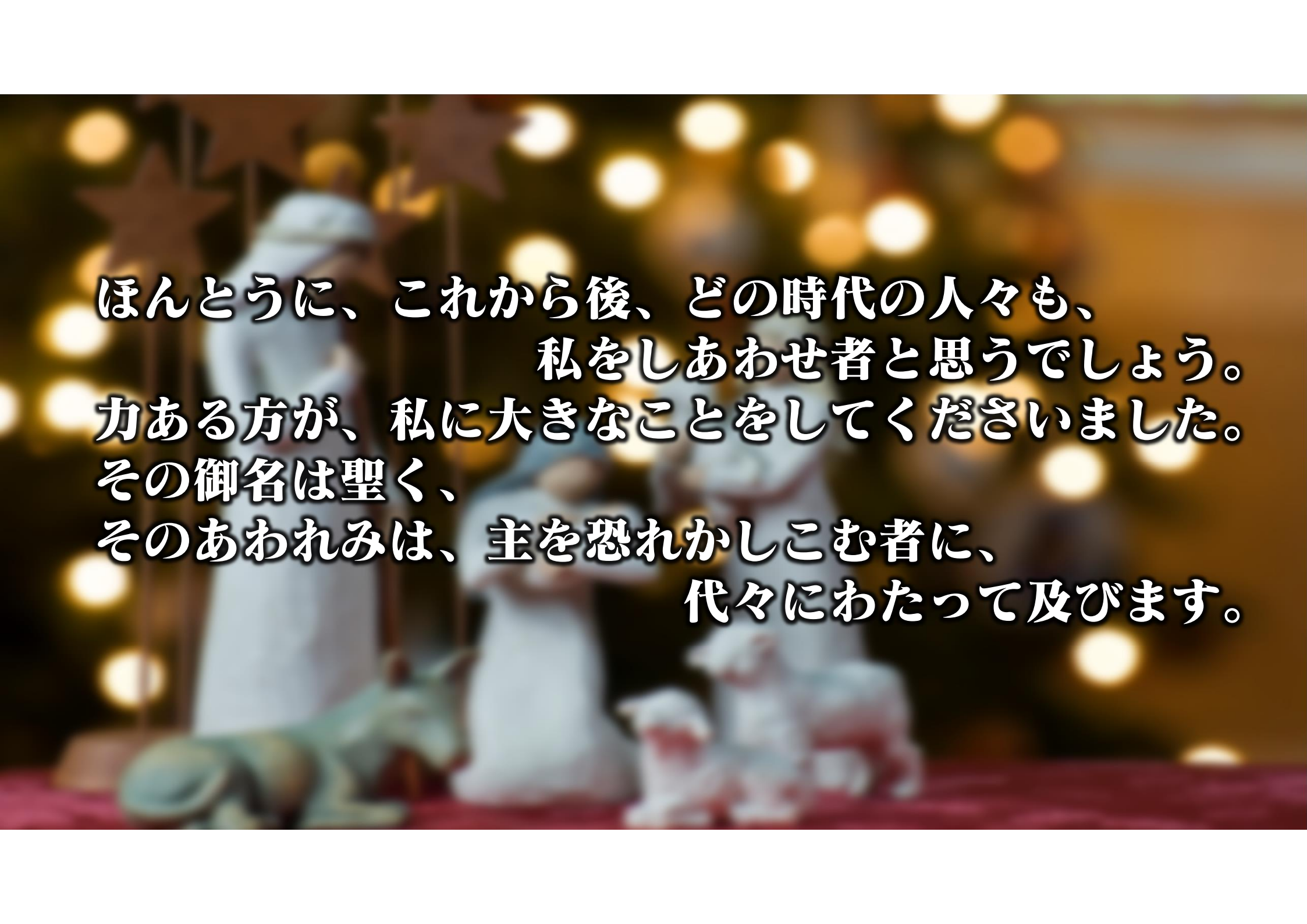


マリアの賛歌

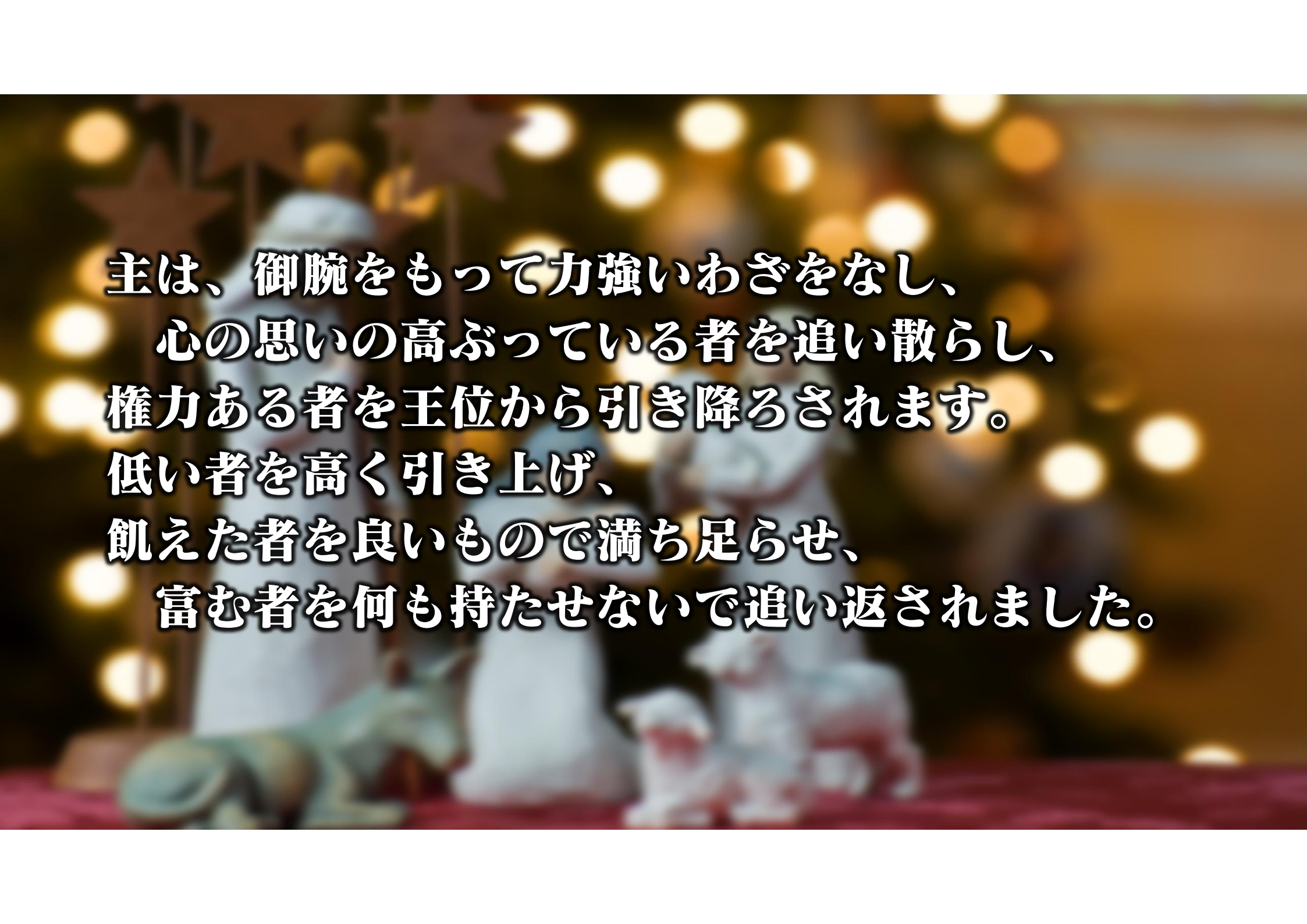
ルカ福音書1:46~55



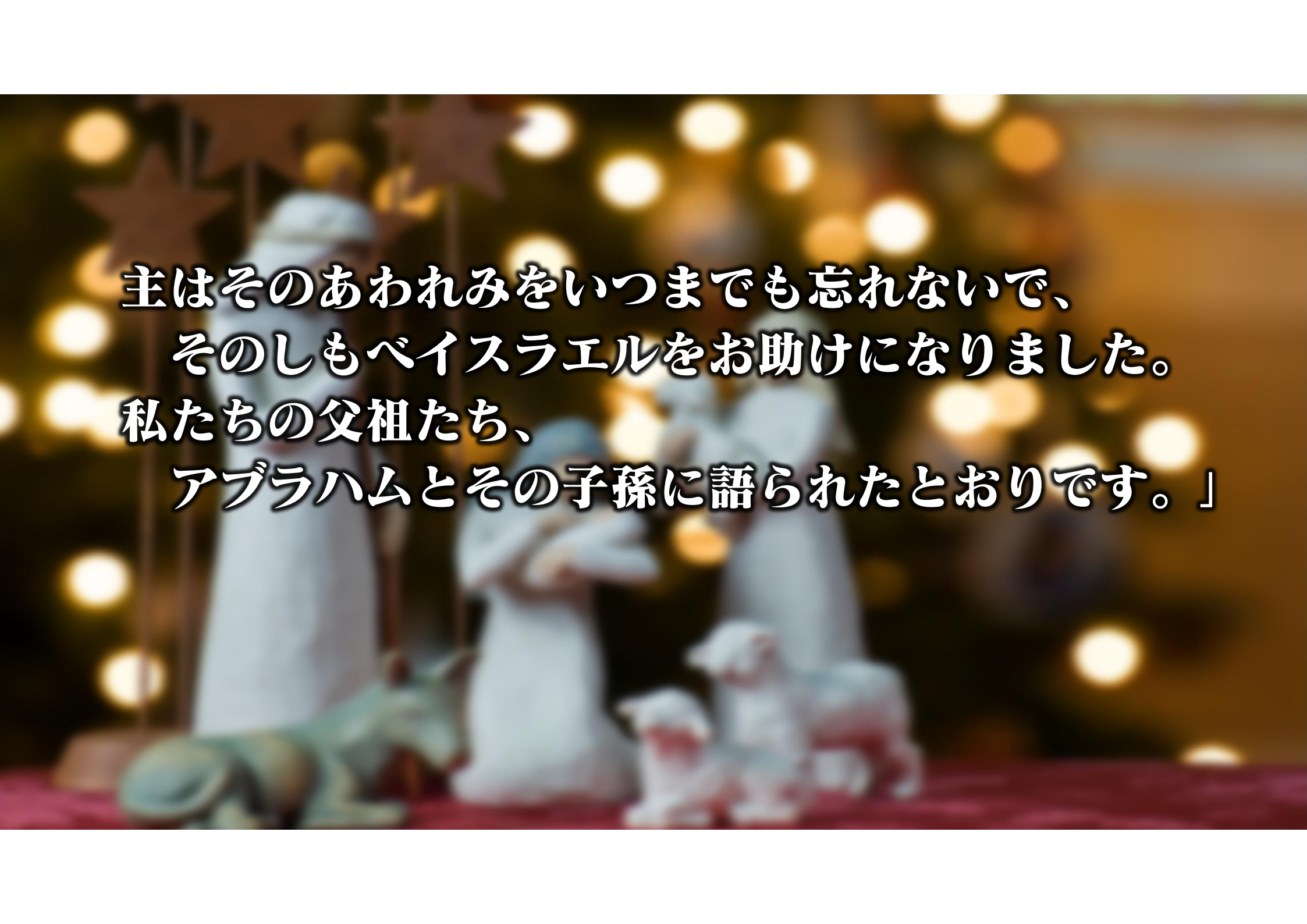
「わがたましいは主をあがめ、
わが霊は、わが救い主なる神を喜びたたえます。
主はこの卑しいはしたために
目を留めてくださったからです。」



ほんとうに、これから後、どの時代の人々も、
私をしあわせ者と思うでしょう。
力ある方が、私に大きなことをしてくださいました。
その御名は聖く、
そのあわれみは、主を恐れかしこむ者に、
代々にわたって及びます。



主は、御腕をもって力強いわきをなし、
心の思いの高ぶっている者を追い散らし、
権力ある者を王位から引き降ろされます。
低い者を高く引き上げ、
飢えた者を良いもので満ち足らせ、
富む者を何も持たせないで追い返されました。



主はそのあわれみをいつまでも忘れないで、
そのしもベイスラエルをお助けになりました。
私たちの父祖たち、
アブラハムとその子孫に語られたとおりです。」

【神の選びの不思議さを歌い、讃えたマリア】

■ 神は、歳行かぬ少女にメシアを身ごもらせた。



■ 神は、最も小さく貧しく、弱い民、イスラエルを選ばれた。



■ 神は、70歳のアブラハムを選び、アブラハムと、その子孫に約束された。
子孫の繁栄、約束の土地の授与、そして、その子孫から、メシアを誕生させることを!!

■ 神は、アブラハムへの約束を、2000年ののち、マリアへのメシアの受胎によって実現された!!



【マリアが讃えた神の約束】ルカ1:50～53

その御名は聖く、そのあわれみは、主を恐れかしこむ者に、代々にわたって及びます。

主は、御腕をもって力強いわざをなし、心の思いの高ぶっている者を追い散らし、権力ある者を王位から引き降ろされます。

低い者を高く引き上げ、飢えた者を良いもので満ち足らせ、富む者を何も持たせないで追い返されました。

■ 未来完了形で、神の計画を讃えたマリア。

“メシアは、王の王として再臨され、地を裁き、悪を一掃し、永遠の王国を築かれる。”

■ 信じる者は、恵みによって、その地に生きる。



A scenic landscape featuring a mix of green grass and scattered grey rocks. Several trees with varying trunk colors and textures are scattered throughout the scene, some in the foreground and others in the background. The lighting is bright, suggesting a sunny day, with shadows cast across the ground.

IV. 洗礼者ヨハネの誕生

ルカ1:39~80

【洗礼者ヨハネの誕生】 ルカ1:37～66

- エリサベツに授かった子が、誕生した。
- 親族が、父の名をとり、ザカリアと名付けようとしたので、口のきけないザカリアは、主に命じられた名、ヨハネをと、文字板に書いて訴えた。
- すると、ザカリアの口が開かれ、ザカリアは、神を誉め讃えた。
- この出来事は、ユダの山地中に広がった。ザカリアによってもたらされた預言とともに!!



【ザカリアの預言】 ルカ1:68～79

「ほめたたえよ。イスラエルの神である主を。主はその民を顧みて、贖いをなし、救いの角を、われらのために、しもベダビデの家に立てられた。

古くから、その聖なる預言者たちの口を通して、主が話してくださったとおりに。この救いはわれらの敵からの、すべてわれらを憎む者の手からの救いである。主はわれらの父祖たちにあわれみを施し、その聖なる契約を、われらの父アブラハムに誓われた誓いを覚えて、われらを敵の手から救い出し、われらの生涯のすべての日に、きよく、正しく、恐れなく、主の御前に仕えることを許される。

幼子よ。あなたもまた、いと高き方の預言者と呼ばれよう。

主の御前に先立って行き、その道を備え、神の民に、罪の赦しによる救いの知識を与えるためである。

これはわれらの神の深いあわれみによる。そのあわれみにより、日の出がいと高き所からわれらを訪れ、暗黒と死の陰にすわる者たちを照らし、われらの足を平和の道に導く。」

【ザカリアの預言の内容】 ルカ1:68~79

■ザカリアは、最後のメシア預言を告げた。

- ①「救いの角(神の権威)」なるメシアがいよいよ誕生する！
- ②イスラエルが救われる時がやってくる!!
- ③神の国で、イスラエルが主に仕える時がやってくる！
- ④洗礼者ヨハネは、メシア到来の準備をする先駆者となり、イスラエルを悔い改めに導く。

■神がアブラハムに約束し、多くの預言者が預言したことが、いよいよ実現するのだと、イスラエルは告げられた。

「そのあわれみにより、日の出がいと高き所からわれらを訪れ、暗黒と死の陰にすわる者たちを照らし、われらの足を平和の道に導く。」 ルカ1:78~79



V. まとめ



【ヨハネとイエスの受胎が示すこと】

- 神は、不妊の女エリザベツを身ごもらせ、イスラエルを見捨てず、メシアの先駆者として、まず洗礼者ヨハネを送られた。
- 洗礼者ヨハネは、イスラエルを悔い改めに導き、メシア到来の準備を行う。
- 神は、かつて小さく弱く貧しいイスラエルを選ばれたように、名も知られぬ町ナザレの少女マリアを選んだ。
- 神がアブラハムに約束されたとおり、数々の預言のとおり、イスラエルのダビデの末から、メシアは誕生する。

【マリアの受胎から、私たちが学ぶこと】

- 神は、約束を必ず守られる方である。すべての預言は成就する。
- 神は、一方的に、貧しく、小さな者を選ばれる。
選ばれる側に、選ばれるに足る理由はない。
マリアは、ただ、神の恵みによって選ばれたのだと理解した。
- すべては、神の力によってなされたのだと、明らかになるため!!
- 「わたしのような者が？」と言う、あなたをこそ、主は用いられる。
- 主に用いられる器になるために、信者の誰もが訓練を受ける。
自分の無力さを思い知り、ただ主に信頼することを学ぶ訓練。
- マリアのように主に告白し、従っていこう。「わたしにはできません。
しかし、あなたが助けてくださるなら、できないことはありません」

「天のお父さま。

わたしは、御子(みこ)イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがな)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信(しん)じます。

マリアのように、主(しゅ)の前(まえ)に へりくだり、
ただ主(しゅ)を信頼(しんらい)する信仰(しんこう)を
与(あた)えてください。

感謝(かんしゃ)して、主(しゅ)イエス・キリストの
御名(みな)によって 祈(いの)ります。アーメン」